

国立西洋美術館開館 60 周年記念 ル・コルビュジェ

～ 絵画から建築へ ピュリスムの時代 ～
国立西洋美術館（上野公園） 2019.02.19～05.19



「国立西洋美術館本館」は、20 世紀建築の巨匠「ル・コルビュジェ」（1887～1965）が設計した建物で、2016 年には「ユネスコ世界文化遺産」に登録されている。

本展は、開館 60 周年を記念して開催されるもので、巨匠が若き時代に故郷のスイスを離れて芸術の中心地パリで「ピュリズム（純粹主義）」の運動を推進した時代に焦点を当て、絵画、建築、都市計画、出版、インテリア・デザインなど実に多方面にわたったおよそ 10 年間の芸術活動を振り返る企画である。

さらに、本展では巨匠と同年代に活躍した作家たちの美術作品「約 100 点」に、建築模型、出版物、映像など多数の資料を加えて構成され、彼が世に出た時代の精神を彼自身が作り出した「世界遺産建築」を体験できる機会である。

参加しているアーティストは、巨匠の他に「ピカソ」「ブラック」「レジェ」「グリス」「ローランス」らのそうそうたる作家たちの作品である。



ジャンヌレ《開いた本、パイプ、グラス、マッチ箱のある静物》1918 年頃（左）
ジョルジュ・ブラック 《食卓》 1920 年 油彩/カンヴァス（右）

<見どころ 1> 「ル・コルビュジェ」誕生の前夜

「ピュリズム」運動は、1918 年第一次世界大戦終了時に「シャルル＝エドゥアール・ジャンヌレ」と画家「アメデ・オザンファン」による絵画展で始まった。

《開いた本》には、机上の静物に建築史のギリシャ建築の頁が開かれている。

<見どころ 2> キュビズムとの共演 巨匠が生きた 1920 年代パリの美術界

ブラックは、第一次世界大戦後に抑制的で洗練された画風を築き、フランスの伝統と近代性を融合した画家として称賛された。

<見どころ 3> 絵画から建築へ 総合芸術家巨匠の多彩な活動

『ル・コルビュジェ』の広範な業績が彼の作品の建物内で紹介されている。